

重点課題
の考え方

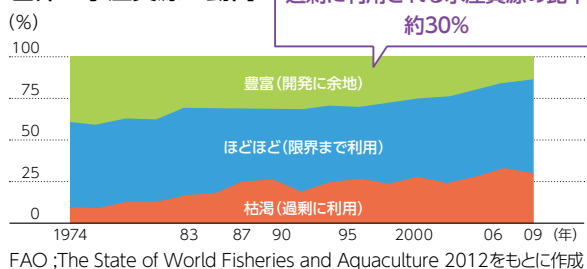
セブン&アイHLDGS.は、膨大な商品・サービスを提供する上で、社会・環境に配慮したものにし、エシカルな社会づくりに貢献していくことが、グループとしての重要な役割であると考えています。また、商品の原材料の調達からお客様のもとに届くまでのすべてのプロセスにおいて、法令を遵守するだけでなく社会・環境に配慮した価値のあるものを提供することが重要です。近年高まる、「エシカルな消費」への意識に対応するとともに、資源の持続可能性向上に寄与するため、お取引先を含むサプライチェーン全体で取り組みを進めていきます。

重点課題の背景

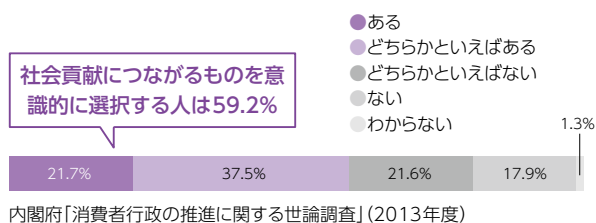
漁業資源の減少・枯渇

近年、魚介類の消費量が増加する中で、乱獲や環境を壊すような資源利用などが行われてきました。その結果、健全な状態の水産資源が確実に減少する一方で、枯渇の危機にある資源が増えてきています。私たちの身近なものでもクロマグロやニホンウナギが絶滅の危機にひんしています。

世界の水産資源の動向

サプライチェーンの社会・環境影響への
関心の高まり

世界中でさまざまな社会課題が存在する中、フェアトレードで生産されたものを購入したいという消費者が増えています。こうしたエシカル(倫理的)な消費に対する意識の高まりに合わせて、サプライチェーン全体での持続可能なビジネスモデルを構築することが重要になっています。

商品・サービスを選択する際に社会貢献につながる
ものを意識的に選択することがありますか？

セブン&アイHLDGS.の方針

地球上では人口増加や生活の変化による自然資本の枯渇、生物多様性の損失などさまざまな環境問題に直面しています。地球の持続可能性を保ちながら、企業も持続的に成長するために、各ステークホルダーと連携しながら、以下に基づいた行動に努めます。

- ① 生物多様性への配慮、その回復に向けた活動への協力
- ② 違法な自然資本の取引引きや伐採・漁獲の排除
- ③ 枯渇の危機にある自然資本への配慮
- ④ 農畜水産物のトレーサビリティと情報発信の推進

※この方針は社会状況の変化や新たな情報に応じて改定します。

「持続可能な調達基本方針」より

セブン&アイHLDGS.の取り組み

「持続可能な調達基本方針」の策定

自然資源の商品調達に関し、将来世代にわたり持続可能な調達が求められており、各ステークホルダーからの要請をふまえて調達方針を策定

お取引先行動指針の強化

お客様に安全・安心な商品を提供し、お取引先と協働で人権・労働・環境面などの社会的責任を果たしていくため、お取引先行動指針の運用を強化

持続可能な森林保全活動

地球温暖化防止に貢献し、生物多様性の保全に寄与することを目的に、「セブンの森」プロジェクトを実施

お客様への啓発活動

お客様に地球温暖化防止や生物多様性など、持続可能な社会の必要性についてご理解いただけるように環境配慮商品を開発・提供

社会にとっての価値

資源の持続可能性向上

お客様、サプライヤーの社会・環境配慮の向上

セブン&アイHLDGS.にとっての価値

原材料確保の持続性向上

サプライチェーンリスクの低減

お客様、お取引先を巻き込んだ エシカルな社会づくりと資源の持続可能性向上

「持続可能な調達基本方針」の策定

地球環境問題への関心が高まる中、地球温暖化とともに、人口増加や生活の変化による自然資本の枯渇や生物多様性への配慮が企業に対しても求められています。そのような中、セブン&アイHLDGS.は、お客様をはじめとしたステークホルダーからの要請や期待に応え、事業を通じてさまざまな価値を創造し続けるとともに、持続可能な社会づくりに取り組みつつ、企業も合わせて持続的に成長することを目的として、2014年9月「持続可能な調達基本方針」（以下、本方針といいます）を策定して、グループの調達活動に関する取り組み方針を改めて明文化いたしました。

生物多様性への配慮、コンプライアンスの徹底や枯渇問題への配慮、トレーサビリティの把握などに取り組むことで、ステークホルダーと連携して持続可能な社会の実現に貢献していくことを目指します。

今後は、グループ内での本方針の浸透を図るとともに、本方針に基づく各カテゴリーの基準を定め、お取引先の理解と協力を得ながら、サプライチェーン全体で持続可能な社会の実現を目指します。

お取引先行動指針の運用強化

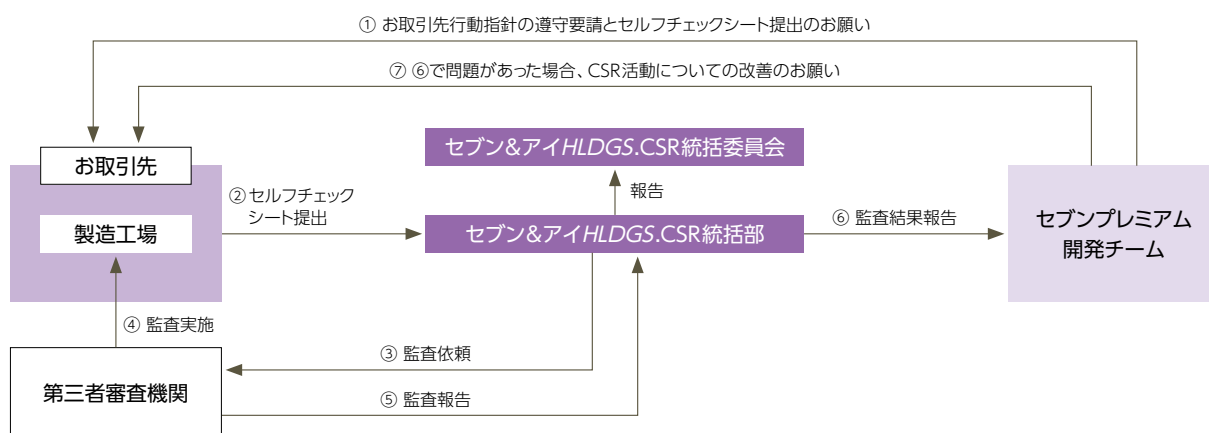
取り組みの背景

セブン&アイHLDGS.では、経済のグローバル化とともに製造委託先や原産地が世界各国へと広がる中、お客様に安全・安心な商品を提供するため、またお取引先と協働で人権・労働・環境面などの社会的責任を果たしていくため、お取引先行動指針を運用しています。

社会的課題が複雑化、多様化している中、その解決にはさまざまなステークホルダーの関与が求められていると同時に、企業の社会的責任の範囲は、自社の事業活動にとどまらず、取り扱っている商品・サービスの企画・生産段階からお客様が消費し廃棄するまでのサプライチェーン全体に対し責任を持つことが求められる時代となっており、

労働時間や賃金の適正な管理、労働者の働く環境や居住施設の安全・衛生、さらには工場やその周辺地域に対する環境への配慮などは、商品の安定的な品質を確保し、工場の生産効率があがるだけでなく、労働者の働きがいの向上やマネジメント層との意思疎通が図れ、結果的にお取引先とセブン&アイHLDGS.双方の持続的成長に寄与するものと考えています。

「お取引先行動指針」運用の流れ（例：「セブンプレミアム」の場合）



お取引先行動指針の徹底

セブン&アイHLDGS.は、2007年に「セブン&アイHLDGS.お取引先行動指針」(以下、本指針といいます)を策定し、お取引先に本指針への理解と遵守を要請しています。

本指針の趣旨は、取り扱う商品・サービスの「安全・安心」の確保だけでなく、サプライチェーン全体を考慮にいたれた法令遵守、環境保全、労働条件への配慮などを推進し、お取引先の皆様とともに社会的責任を果たすことにあります。

本指針については各社のお取引先とのさまざまな会議を通じて周知を図っています。

セブン&アイHLDGS.お取引先行動指針(抜粋)

- | | |
|----------------|------------|
| 1. 法令遵守 | 6. 情報の管理 |
| 2. 人権・個人の尊厳の尊重 | 7. 商品の安全確保 |
| 3. 雇用・職場環境 | 8. 公正な取引 |
| 4. 環境管理 | 9. モニタリング |
| 5. 地域・社会との関係 | |

全文はWebサイトで公開しています。

● <http://www.7andi.com/csr/suppliers/guide.html>



お取引先行動指針についての説明会の様子

「セルフチェックシート」による指針遵守

セブン&アイHLDGS.では、本指針の遵守に必要な具体的事項を明記したお取引先向けのセルフチェックシートを作成しています。このチェックシートは、「ISO26000」「経団連企業行動憲章」「OECD多国籍企業行動指針」などを参考にしています。

お取引先に本指針を理解いただき、実効性のあるCSRの取り組みに役立てていただくとともに、セブン&アイHLDGS.としてお取引先のCSRの取り組み状況を把握させていただいています。現在、グループ共通の戦略商品であるプライベートブランド「セブンプレミアム」およびイトーヨーカドーの海外直輸入のお取引先に対してチェックシートの提出をお願いしています。

CSR監査の推進

セブン&アイHLDGS.では、2012年度よりセルフチェックシートの提出をお願いした一部のお取引先に対し、チェックシートに基づきセブン&アイHLDGS.が独自に作成した監査項目(16の大項目と約140のチェック項目)に沿って、外部の審査機関がお取引先の工場に対する本指針への遵守状況を確認するCSR監査を実施しています。

このCSR監査において監査項目に適合しない事項(不適合事項)が発見された場合には、外部の審査機関より当該お取引先に対し不適合事項の指摘を行います。お取引先には、この指摘に基づいた「是正処置計画(CAP)」を監査終了後10営業日以内に審査機関に提出していただくとともに、直ちに指摘事項の改善に取り組んでいただきます。

お客様、お取引先を巻き込んだ エシカルな社会づくりと資源の持続可能性向上

さらに、重大・品質不適合、主要な軽微不適合の是正が完了しているか、または計画内容が有効であると審査機関およびセブン&アイHLDGS.が判断した時点で、お取引先に対して「適合認証書」が発行されます。ただし、重大・品質不適合が10項目以上ある場合などは、再監査を実施し徹底した改善をうながしていきます。



16の大項目

1. マネジメントシステムおよび規範実施
2. 強制労働
3. 結社の自由
4. 健康および安全
5. 児童労働および若年労働者
6. 生活賃金
7. 労働時間
8. 差別
9. 正規雇用
10. 下請け契約、家内工業、外部加工
11. 懲罰
12. 環境
13. 公正な取引引き
14. 商品の安全確保のために
15. セキュリティ管理
16. 地域社会の便益

2013年度の監査結果

2013年度は中国、タイ、ミャンマー、インドネシア、ベトナム、カンボジア、韓国の7カ国、30工場に対しCSR監査を実施しました。その結果、全監査実施工場における本指針の平均遵守率は91.7%、再監査は6工場でした。主に改善が必要な項目は、「労働環境」面、「安全・衛生」面、「許認可」面で多く見られ、監査終了後各工場から提出される「是正処置計画(CAP)」、改善を示した写真・担保資料、さらに再監査などを通して、改善完了の確認を行いました。

①「労働環境」面(代表的事例)

- ・無届けや法基準を超えた長時間労働
- ・出退勤の記録管理の不備
- ・従業員に対する懲罰的罰金の賦課

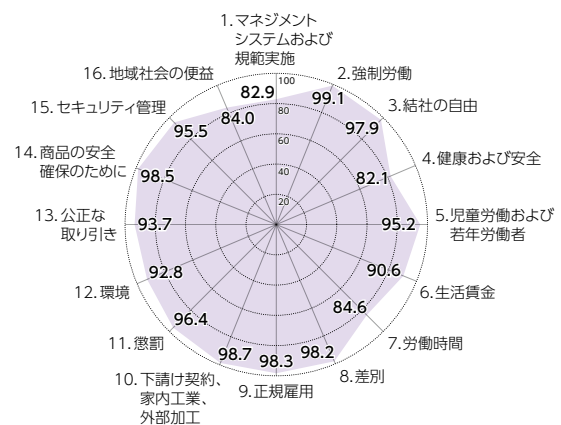
②「安全衛生」面(代表的事例)

- ・消防・防火設備の不備
- ・機械の安全装置の未装備
- ・有害化学薬品の誤った取り扱い、保管

③「許認可」面(代表的事例)

- ・事業免許の未取得、未更新
- ・無免許による機械操作、運転
- ・施設、工場などの建築時の環境許可の不備

CSR要求項目平均遵守率



2014年度のCSR監査の拡大

2014年度は、途上国におけるセブンプレミアムの製造工場およびイトーヨーカドーの海外直輸入工場、約350工場を対象としたCSR監査の実施を計画しています。また、そごう・西武(商品部・法人外商部)や赤ちゃん本舗のプライベートブランド商品の一部についても、CSR監査の実施を計画しています。

CSR監査の対象工場の大幅な拡大に向けて、再度お取引先行動指針の趣旨、2013年度のCSR監査結果の共有、さらにCSR監査の具体的内容やお願い事項などについて事前説明会を国内外で開催し、お取引先にCSR監査への理解と協力を要請しました。

事前説明会開催実績

2014年4月 セブンプレミアムの食品のお取引先向け(商品カテゴリーごとに8回開催)

5月 イトーヨーカドー海外直輸入の中国国内お取引先向け(中国青島市と上海市で計2回)

7月 セブンプレミアムの海外製造商品のお取引先向け(国内1回)
イトーヨーカドー海外直輸入の衣料・住居関連のお取引先向け(国内1回)

8月 イトーヨーカドー海外直輸入のASEAN諸国衣料・住居関連のお取引先向け(ミャンマー、カンボジア、タイ 各1回)

今後も引き続きグループ会社の商品部や品質管理部など関係部署とCSR監査結果の共有を図るとともに、お取引先の改善に向けた取り組みを確認・支援していきます。

TOPICS

お取引先相談窓口の運用

取引引きにおける疑問やご意見などをお取引先から受け付け、迅速な改善を図ることで公正な取引引きの確保に努めることを目的に、「お取引先専用ヘルプライン」を設置しています。

受付窓口を委託する第三者機関と業務委託契約および機密保持契約を結び、相談・通報者の個人情報、プライバシーを厳守しています。本人の希望に応じて氏名や所属は第三者機関の窓口にとどめ、匿名でセブン&アイHLDGS.へ報告することも可能です。また、相談・通報者が相談窓口を利用したことによる不利益な取り扱いをセブン&アイHLDGS.およびグループ各社から受けないことを確認するため、通報対応終了後の1カ月をめぐに第三者機関から相談・通報者に対し、報復行為の有無を確認しています。

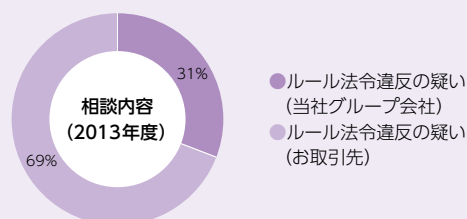
※お取引先専用ヘルプラインについてはWebサイトで詳しく紹介しています。

● <http://www.7andi.com/csr/suppliers/helpline.html>

2013年度相談受付件数

2013年度	16件
2012年度	12件
2011年度	15件

相談内容の内訳



お客様、お取引先を巻き込んだ エシカルな社会づくりと資源の持続可能性向上

○ 持続可能な森林保全活動

セブンの森

セブン&アイHLDGS.は、一般財団法人セブン-イレブン記念財団*とともに地球温暖化防止に貢献し、生物多様性の維持・保全に寄与することを目的として、「セブンの森」森林保全プロジェクトを全国14カ所で行っています。森の木々は、CO₂を吸収して酸素に変えますが、植えてから20年を過ぎると吸収する機能が衰えます。人が手入れすることで、CO₂の吸収を維持できますのです。植樹活動に限定することなく、「健全な森林づくり」に必要な間伐や下草刈り、樹種転換などの森林整備活動を行うことで、生物多様性の保全と調和した持続可能な森林保全活動を目指しています。グループ社員やセブン-イレブン加盟店のボランティアによる森林整備も定期的を実施しており、2014年8月までに24回開催し合計2,220人が参加しました。

また、長野の活動地では、森林から得られる木質材をグループ内の店舗資材や事務備品として使用するほか、商品化を進めることで国産木材の活用を促進しています。

※加盟店とセブン-イレブン本部が一体となって環境をテーマにした社会貢献活動に取り組むことを目的として、1993年に設立されました。セブン-イレブンの店頭募金とセブン-イレブン本部からの寄付金をもとに、「地球温暖化防止」「地域活動支援」「自然環境保護・保全」「災害復興支援」「広報」の事業領域を設け活動しています。
2013年度の店頭募金総額は454,007,883円、公募助成先総数(継続を含む)は260件、助成総額は155,948,445円でした。



「セブンの森」森林保全プロジェクトの概要



TOPICS

九重ふるさと自然学校

セブン-イレブン記念財団では、2007年から大分県玖珠郡九重町で、日本の貴重な自然や生態系の保護・保全活動に取り組む「九重ふるさと自然学校」を運営しています。

ビオトープの整備や環境教育の実践に加え、活動紹介ツールの制作・広報に力を入れており、田んぼの賢明な利用の意識向上に対して具体的な効果が期待されるとして、自然学校の「自然共生型田んぼ」が、2014年3月に国連生物多様性の10年日本委員会(UNDB-J)による連携事業に認定されました。

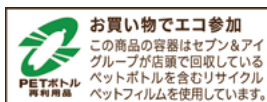


田んぼの生きもの観察

お客様への啓発活動

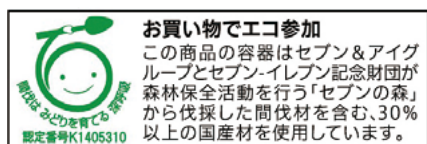
ペットボトルのリサイクル商品

セブン&アイHLDGS.では、グループ各店舗で回収したペットボトルをリサイクルし、容器に使用した詰め替え用ボディソープを、プライベートブランド「セブンプレミアム」で2014年8月より販売しています。



包材への間伐材活用

セブン&アイHLDGS.は、2013年6月に「長野セブンの森」から伐採した間伐材を使った紙製飲料容器「カートカン」を採用した飲料を、セブンプレミアムで発売しました。容器には国産木材を30%以上使用しており、健全な森林育成と地球温暖化防止につながっています。現在カップ麺など飲料以外にも範囲を広げるべく、開発を進めております。



また、そごう・西武では、ギフトをご注文の際、「地球環境を考える」というメッセージもあわせて贈ることができる「グリーンラッピング」を提案しています。お客様にリーフマスコット付きリボンを100円(税込み)でご購入いただくと、1件につき50円が植樹・育樹活動に寄付され、80件で1本の植樹につながります。また、お中元、お歳暮ギフトでは「簡易包装」へのご協力4,000件で1本の植樹を行っています。(2009年から2014年8月末までの累計で5,465本を植樹)



グリーンラッピング

イトーヨーカドーは、農薬・化学肥料を減らすだけでなく、野生生物が生息できる田んぼをつくり「生物多様性農業」を実践している「環境保全・自然共生型栽培米」シリーズを販売しています。この商品の収益の一部は産地の環境整備のために寄付しており、2013年度は「コウノトリ育むお米 コシヒカリ」で約21万円をコウノトリ育成基金へ、「朱鷺と暮らす郷づくり認証米 新潟県佐渡産 コシヒカリ」で約36万円を佐渡市トキ環境整備基金へ寄付しました。



店頭での環境啓発活動

セブン&アイHLDGS.では、環境省と日本環境設計株式会社が進める「PLA-PLUSプロジェクト」に参加しています。ご家庭で不要になったプラスチック製品を店頭で回収し、それをリサイクルする活動に2013年11月から期間限定で協力しました。



※参加事業会社：
イトーヨーカドー、ロフト、
赤ちゃん本舗

そごう・西武では、CO₂削減や夏の節電対策として、環境省が推進する「グリーンカーテンプロジェクト」に全店舗で参加。店舗の屋上や出入り口で、近隣の幼稚園や保育園のお子様とともにゴーヤの苗植えを行うなど、身近な地球温暖化対策に興味を持っていただく活動を推進しています。



強い日差しを和らげる
グリーンカーテン